

平成 29 年 4 月 24 日小方地域まちづくり対策特別委員会 議事録

16 時 00 分 開会

○細川委員長 皆様、お疲れのところではございますが、時間になりました。定足数に達しておりますので、ただいまより会議を開きます。

初めに、本日、日域委員が体調不良で欠席しております。副議長がちょっと所用で若干おくれるという報告を受けておりますので、お知らせしておきます。

それでは日程に従って進めさせていただきます。

まずは日程 1、小方地区のまちづくり基本構想についてを議題といたします。

小方地区のまちづくり基本構想は、完成したものを皆様のレターボックスに事前に配付していただいておりますが、皆様お持ちになっておられるでしょうか。きょうはそれを使つての説明になると思います。

本日は、先ほどの生活環境の委員会同様、議会報告会の前にでき上がったものについて御説明をしていただくということで、急遽担当課のほうにお願いいたしまして、委員会を開催していただくこととなりました。ということで、きょうは担当課のほうから説明に必要な方しか出席要請をしておりませんので、きょうこのような形になっておりますが、御理解をお願いいたします。

それでは、早速ですがお願いいたします。

企画係長。

○山田企画財政課課長補佐兼企画係長 それでは、改めまして小方地区のまちづくり基本構想につきまして御報告をさせていただきます。

3 月の本委員会におきまして概要版という形でございましたけれども、概略を説明させていただきました。その際にも御意見をいただき、またその後ゆめタウンでオープンハウスという形で市民の皆様からアイデア等もいただいたところではございます。いろんな御意見たくさんいただきました。なるほどというようなものもたくさんございましたけれども、3 月に説明した概要から根本から見直すというようなことではありませんでしたので、きょう説明させていただくものにつきましても、がらりと様子が変わるというものではありませんけれども、3 月 24 日をもって業務が完了しましたので、けじめということで改めて報告をさせていただきたいと思っております。

それではお配りをさせていただきました基本構想の本編、厚いほう、冊子になっている縦長のほうで説明をさせていただこうというふうに思っております。

それでは 1 枚はぐっていただいたところに目次を載せております。これが構想全体の構成ということになります。1 章で小方地区の現況と問題点ということで、人口の動向であるとか、都市施設、医療であるとか子育て、商業等の現況というものをまとめております。それから 2 章のほうで上位関連計画との整合ということで、わがまちプランと総合戦略との整合について記述をしております。それから 3 章のほうにまちづくりのニーズということで、宮島口で行いましたアンケートと市民ワークショップ、それから議員の皆様にも御協力をいただいたワークショップの概要についてまとめております。これらに基づいて、

4章でまちづくりの課題ということを抽出しております。それから5章から7章にかけて、まちづくりの基本理念、基本方針、整備指針ということで、こういったまちづくりをしていくかというところを取りまとめております。それから8章で跡地の活用方針、それから9章で年次別実現プログラムというような構成になっております。1章から3章でまちづくりの課題であるとか市民の皆さんのニーズといったものを整理して、4章で課題を抽出して、5章から8章にかけて、こういったふうに進めていくかというようなものを記述しております。

それでは、中身について少しずつではありますが、説明をさせていただきます。

まず1ページのほうには、位置と地勢ということで、こういう計画の導入ということで、本市の位置であるとか面積であるとかというような部分を客観的に事実を記述したものでございます。

それから2ページから人口の動向ということで、少し長目に記述をしております。平成27年度に策定をいたしました人口ビジョンと同様の分析結果にはなりますけれども、徐々に人口が少しずつ減少をしてきているということ、それから少子化が進んでいる、高齢化が進んでいるというようなところについて、国勢調査の結果に基づいて記述をしております。

それから3ページのほうに地区別の人口の推移ということで、それぞれの地区別に比較したものを掲載しております。基本的に市全体の人口が減少しているということでございますので、それぞれの地区でも少しずつ人口は減ってきておりますけれども、中山間地域はもちろんのこと、大竹地区においても人口の減少の割合が比較的大きくなっているというようなところがこの表からわかります。小方地区につきましては、この30年間の比較で、12.5%程度人口が減っているというような状況です。

それから5ページのほうに世帯数について記述しております。世帯数は微増ということでございます。小家族化それから単身世帯の増加というようなところがあって、人口は少しずつ減っているけれども世帯数はややふえていると。ほぼ横ばいに近いですが微増というような状況でございます。

それから6ページに産業人口の推移を掲載しております。こちらにつきましても、オレンジ色の第二次産業についてはほぼ半減というような状況の中で、第三次産業はほぼ横ばいという中で、全体としては産業別の就業者の数も少し減ってきているという状況でございます。

それから7ページから人口動態ということで、まず左側の表の青色の部分になりますが、自然増減については平成11年からマイナスに転じているということです。それから白色のほうの社会増減についてはずっと減少ということで、平成25年度、26年度においては一旦プラスに転じていますが、27年度再びマイナスになっているということでございます。

それから右側のほうにゼロ歳から39歳の転入者が総人口に占める割合ということで、平成22年、27年の国勢調査の結果を近隣市町との比較ということで載せております。基本的には、割合そのものは他市と比べて、和木町さんちょっと割合が多い、それから岩国市さん若干少ないというのはありますけれども、他市と比べても遜色ないというか、そんな大

きな変化はないというふうに思いますが、本市の特徴としまして、この1回だけの比較ではありますが、22から27にかけてその割合がふえているのは本市だけだというのは、一つ特徴として見てもいいのかなというふうに思っております。

それから8ページ、9ページにかけて人口の流入・流出、それから中夜間人口比率という部分について記載をしております。6,400人の方が通勤者でいえば流入をしている中で、5,000人の方が働きに出ている、流出をしているという状況です。働きに来られる方が大変多いという、以前から申し上げておりますが、そのことの数値を記載しております。それから市外からの通勤の方が約45%を占めておりますので、そこらに伴って中夜間人口が本市でも100を超えているということで、近隣では広島市と本市の特徴だろうというふうに思っております。

それから次の10ページのほうに観光の状況を書いております。見ていただいて一目瞭然ではあるんですが、観光の入込客数、消費額ともに極端に少ないということで、なかなか観光地という意味では成果が出ていないというところでございます。

それから11ページから14ページにかけては、公共交通の状況ということで、現況を整理するというところで取りまとめたものを載せております。

それから15ページから都市施設の状況ということで、単位人口当たりの施設数等を比較しております。まず一つ目の医療施設というところでは、他市とそんなに変わりがない。数の話ではありますが、他市並みというところで大きな特色はないかというふうに思っております。それから子育て施設のほうは、若干数が少ないという状況があります。特に市域の中でも大竹・小方・玖波というふうに中学校区ごとで比べたときには、小方地区、小方中学校区の子育て施設の数というのは、ちょっと突出して少ないという状況があるというところでございます。

それから17ページ、18ページにかけて、商業施設の数ということについて記述しております。商業施設の数も単位人口当たりでは比較的多いという状況にあって、特に小方地区には大型の商業施設が集積をしているということもあって、充実しているだろうというふうに思っております。ただ飲食店の数ということになりますと、やはり広島市、岩国市さんなんかと比べると、少し少ないという状況がございます。

それから21ページから第2章ということで、上位の関連計画との整合ということで、わがまちプランとの関係、それから総合戦略との関係ということの整理をしております。後期の基本計画と総合戦略、基本的には一体でつくるということで進めてきた計画でございまして、それぞれに似たような記述が入っております。小方地区のまちづくりということにつきましても、しっかり取り組んでいくということについて、盛り込んでいるんだというのを記述しております。確認程度のものということにはなりますが、上位計画との整合ということで整理しております。

それから、第3章からまちづくりのニーズということで、それぞれアンケートとワークショップの概要についてまとめております。

まず一つ目の宮島口のアンケートの結果です。24ページに宮島口のアンケート結果を掲載しております。宮島口の駐車場に来場された方を対象に、聞き取りでアンケートを行っ

ております。ここにまとめてますのは、岩国方面から来られたお客様にということなので、母数は余り多くはありませんけれども、そのうち小方港から宮島へフェリーが運航された場合に、約半数の方はぜひ利用したいと。4割近くの方が利用すると思うと御回答いただいておりますので、母数少ないですけれども、将来に向けて検討するに当たって、一つ可能性という意味では、あるのかなというふうに感じております。

それから26ページから33ページにかけまして、ワークショップについて概要をまとめております。まず26ページの第1回目の市民ワークショップでは、本市の強み・弱みというところを抽出していただきまして、跡地の活用策を考えていただいております。いろんな意見をいただきましたけれども、歴史とか文化とかいったものを大切にしながら、くつろぎの空間であるとかスポーツとかいったものを通じて、豊かな暮らしがしたいであるとか、市外からも人を呼び込んで交流促進をしたいというような思いを持たれている方が多いのかなということが伺えたかというふうに思っております。それから2回目では全く同じ方ではありませんでしたが、一部重複をした方もいらっしゃる中で、第1回目に出た活用策を踏まえて、実際にこの小・中学校を中心としたエリアにレイアウトといいますか、どこにどういう配置をしたらいいだろうかというようなことを考えていただいて、それが実現するとどんな暮らしができるんだろうかというような実際のちょっと将来の夢のあるといいますか、そういったものを皆さんにイメージしていただいたり、描いたりしていただいて、小方のまちづくりへ夢を膨らませていただいたというような作業を行っていただきました。

1回目と同じような意見もたくさんございましたけれども、便利に暮らしたいというような豊かさを求めるとともに、子供と高齢者が交流できるようなものがあつたらいいねとか、交流できる時間とか場所が共有できることができたらいいなというようなことを言われる方がたくさんいらっしゃったなという印象を持っております。

それから31ページに議会の皆様に御協力いただきました議員ワークショップということでもまとめております。こちらでは、市民ワークショップのときと同じように、大竹市の強み・弱みというようなところをピックアップしていただいて、それからまちづくりの方向性とコンセプトというようなところを定めていただいたかと思います。いろんな御意見たくさんいただいて、発表もしていただきましたけれども、それぞれ三つの班から定住であるとか、交流であるとか、子育てというような若者とかいったところのキーワードが浮かび上がってきたかなというふうに思っております。

これらのことを踏まえまして、第4章でまちづくりの課題ということで取りまとめをしております。34ページになります。大きく五つの課題があるというふうに整理させていただいております。

まず一つ目ですけれど、暮らしやすい生活環境が定住に結びついていないということで、生活利便性というのは、周辺の市町と比較してもそんなに遜色ないと。しかもそんなに高くないという中ででありながら、小方地区で、さらには小方地区には大型の商業施設が集積している、高速のインターチェンジも近い、交通のアクセスもいいというような中で、中夜間人口が実際には100を超えているという現状がございます。多くの働く場があると

いうことの恩恵でもあろうかというふうには思いますけれども、働きには来ても住むまちとしてなかなか選ばれていないということを示しているのではないかというふうに思っております。

それから2番目として、若い世代が多く居住しているが、子育ての環境が整っていない、十分ではないということを課題に掲げております。国勢調査の結果では、ゼロ歳から39歳、比較的若い世代の方の転入割合が5年前と比べてもふえていると。そういうところがある中で、子育て施設の数を決して多くはないという結果が出ております。特に小方地区ではそれが顕著だというようなこともございます。これまで保育所に限っては待機児童がなかったというようなこともあって、市全体の保育所の数という面では充足しているんだというふうに考えておりますけれども、今後に向けてより多様なニーズへの対応であるとか、子育てをする親御さんのコミュニティーとかつながりとかいったものを醸成していくというような、保育以外の支援もこれからは必要になってくるのではないかというふうに感じております。

それから3番目として、市民が求める憩いの場や交流の場が不十分であるということです。こちらの商店の数であるとか公園の面積とかいったものについては、やはり同じように人口当たりで比較すれば、数字上は他市町と遜色はないんですけれども、市民からはやっぱりくつろぎの場がないとか、交流の場が不足しているとかいった意見がやはり多くいただいたように思います。他の市町と客観的に比較するという意味では、人口当たりで比べるというのも一つの目安なんだろうというふうにも思いますが、実際の市民お一人お一人の感覚であるとかいう部分でいいますと、まず施設の絶対数、選択肢の多さというような部分であるとか、実際に気軽に立ち寄れるであるとか、実際に行ってみたときに快適である、気持ちがいいというようなものが、なかなか実感として結びついてないというところがあって、こういった御意見がたくさん出ているのではないかなというふうに思っております。

それから4番目として、地域資源が生かされず、魅力に触れやすい環境が整っていない。それから5番目として、周辺都市の観光客がなかなか本市に回遊してきていないというところを課題として挙げております。このなかなか地域資源がうまく生かされていないという中で、例えば自然を感じられる亀居公園であるとか錦龍公園といった憩いの場の整備が十分でないという意見がたくさん出ております。そういうことも考えますと、宮島であるとか錦帯橋といった全国レベルの観光地が近くにありながらも、我々大竹の市民としては身近なそういったすばらしい資源があるんだけど、なかなかそこに立ち寄るというようなことが、足をとめてもらえてないというような現状があるんだろうというふうに思っております。こういった地域の資源をしっかりと整備を進めていく必要というのはありますけれども、先ほどアンケートにもありましたように、宮島、小方港航路みたいなものがもしできれば、ぜひ使ってみたいという御意見もたくさんございましたので、今後検討していく中で、その辺に一つの可能性という意味では、研究をしていく可能性があるんだろうというふうに思っております。

そういったこれらの五つの課題を踏まえまして、これから小方地区のまちづくりについ

てどのようにしていくかというところを5章から8章にかけてまとめております。

まず5章のほうで基本理念ということで、全体を概念的に1枚ものにあらわしております。コンセプトは繰り返しになりますが、気になる大竹、気に入る大竹、小方宝箱構想ということでございます。先ほど申し上げた課題を解決していくというところに取り組んでいくことで、大竹に注目も集まり、また実際に来てみる、過ごしてみる、住んでみると、やっぱりなかなか大竹いいじゃないかというふうに感じてもらいたいということで、掲げたコンセプトでございます。また、この小方地区をにぎわい、交流、いろんなものの中心になるというところで、魅力の詰まった場所にしていきたいという思いをこの宝箱構想という言葉に込めております。

実際のまちづくりの基本方針というのを38ページ、6章、7章というところに掲げております。課題の裏返しということになりますけれども、住まい、子育て、にぎわいというところを三つの柱にして、これから整備していくということになるわけですが、今ある地域の魅力、人も含めて地域資源というところをしっかりと連動させていながら、まちづくりをしていかないとけないんだらうというふうに思っております。この四つの基本方針というところについて、少し細かく6章・7章のほうで記述しております。

まず一つ目の基本方針、住みたくなるまちということで、大竹市や近隣の市町で働く若い方が住みたいと感じるまちとしていくために、新駅の周辺に住宅を整備していくということです。それからあわせて快適に暮らすという意味では、住まいだけということではなくて、例えばコンビニであるとか、カフェであるとか、そういった比較的規模の小さな商業施設みたいなものも、このエリアの中に一緒に整備ができればいいんじゃないかというふうに思っております。それから従前から課題となっております国道2号によって分断されているというような御意見もありますけれども、そのあたりの往来のしやすさであるとか、鉄道下のガードの部分の安全性とかいったところもあわせて検討していく必要があるというふうに思っております。

それから基本方針の2が子育てが楽しくなるまちということです。こちらにつきましては、保育所の再編等の動向も見据えながらということになるかというふうに思いますけれども、保育所であるとか子育て支援センターといった子育て施設を整備していくというふうに考えております。それから先ほど申し上げましたように、こういった施設だけではなくて、親世代のコミュニティーの形成であるとか、気軽に遊べるちょっとした空間の整備というようなものもあわせて進めていきたいというふうに思っております。

それから40ページのほうになります。基本方針の3がみんなが集いにぎわうまちということでございます。交流をしたい、にぎわいをつくりたい、よそからも人を呼び込みたいという意見たくさんございます。そういったところを踏まえまして、市内外の方が集まって、世代を超えて交流できるような、にぎわいの拠点となるような施設を整備していくということと、周辺にあります既存の施設等々もしっかり連動させながら活用していく中で、まちづくりを進めていきたいというふうに考えております。

それから四つ目が地域の魅力が輝くまちということで、なかなか地域資源が生かされないというところを踏まえまして、晴海の臨海公園であるとか亀居公園といったもののもう

少しアクセス性を増すだとか、しっかりと皆さんが触れ合えるようなものとしていくように整備を進めながら、あわせてにぎわい施設であるとか、子育てゾーンの整備とあわせて連動させながら、しっかりと活用していきたいというふうに思っております。また晴海臨海公園に隣接をしております県の商業用地につきましても、まだ一角が残っております。こちら晴海臨海公園と一体的に有効活用できるような形で何とか誘致ができないかというふうに考えているところです。

これらの今申し上げましたさまざまな整備方針というものを地図上に落としたものが、41ページの絵になります。ちょっと文字が小さいようでしたら、3番の概要版お配りしているかと思うので、もしお持ちであれば、そちらの6ページのほうが若干見やすいかと思いますが。今申し上げた先ほどの39ページ、40ページにそれぞれ基本方針ごとに基本方針があって、丸印でいろんな整備方針書いてありますけれども、そういったものを図面上に落とし込むとともに、旧小方小・中、市民プールというところのゾーニングをそれぞれかけております。

3月の委員会で説明をしたときにも似たような絵をおつけしていたかと思いますが、そのときに御意見いただきましたので、若干修正をさせていただいております。鉄道東西の歩行者の安全性の向上とかいうようなところが、なかなか図面上見てとれないよという御意見もいただきましたので、道路に玖波青木線なんかに色をつけたり線を引っ張ったりというように、若干記述を追加させていただいております。

ちょっとこちらの絵にもゾーニング書いてありますけれども、43ページのほうがちょっとわかりやすいかと思うので、そちらでゾーニングについて改めて説明させていただきます。まず小学校と市民プールの跡地につきましては、新駅の駅前となるということを想定いたしまして、居住ゾーンということにしております。それから中学校側の体育館から西側、体育館の左側はにぎわい交流ゾーン、それから体育館のあるところをレクリエーションゾーン、その東側を子育て支援ゾーンという配置にしております。一部にぎわい交流ゾーンの一番南側といいますか新町沿いのほうは、オレンジ色に着色をしております。これは中学校全体の敷地の一体感を持たせたいということと、晴海エリアに向けての導線を確認したいということで、全体の一本縦筋を通すというようなイメージをちょっと持って、あえてにぎわい交流ゾーンという位置づけにしております。

それから44ページ、45ページのほうに民間活力導入に向けての事業手法とスキームということで、案としてお示ししております。左側の44ページのほうが今構想で考えている事業スキームの案ということで、右側に同じような似たものがありますけれども、こちらはこの構想を策定する中で、コンサルさんのほうで3社ほど民間企業さんに聞き取りをされたということで、それに忠実に基づいて書くと右側45ページのようになるということで、両方掲載をさせていただいていますが、この構想としては44ページのほうを案として考えているということでございます。上側に官民の役割分担というものがありまして、下側に跡地の活用案ということですが、基本的に意味しているものは同じでございます。上側は文字で書いて、下側はちょっと図示して絵で描いているということでございます。この小方の小・中学校の跡地を南側から見ていただいた断面だというふうに思っていた

ければよろしいかというふうに思っております。

一番左側が駅ということで、原則公で整備をするということになります。鉄道敷地とか厳密な部分では全てが公ということではありませんけれども、原則的に駅前広場であるとか駐輪場であるとかいったものが公のほうで整備をしていくということで青色にしております。それから小学校と市民プールの跡地になります住宅と、小規模の商業施設ということになりますけれども、こちらにつきましては基本的に敷地も含めて民による開発ということを想定しておりますので、オレンジ色もしくはこのベージュ色で民という記述になっております。

それから真ん中にあります地域活性化施設等というところも原則的には民間事業として実施するということ想定しておりますけれども、恐らく今のところは、土地については定期借地等になるだろうということで、底地については公ということで、表面が民ということでオレンジ色というふうな書きぶりになっております。建物もオレンジ、民ということでございます。一部土地の敷地、青色を残しているのは、先ほど申し上げた遊歩道の部分があるということで、そこは公共事業だということで青色にさせていただいております。それから体育館については、今のところは公で整備をしていく必要があるだろうというふうに思っておりますが、管理運営等につきましては、可能であれば民のほうでお願いできないかなという将来考えがございますので、併記というような形にしております。

それから一番右側の子育て支援施設、保育所という部分につきましては、どちらの可能性もちょっと考えられるということで、ちょっとはっきりとした方向性が示せてませんので、公民併記という形にさせていただいております。どちらでも開発が可能だというふうにも思っておりますし、保育所それから支援センターいろんなものが考えられる中で、官と民が混在するという可能性もあるだろうということで、今のところちょっとはっきりどちらというような方向性が示せておりませんので、併記という形にさせていただいております。

それから最後に47ページになりますけれども、一応タイムスケジュールということで年次別の実現プログラムということで記述しております。あくまで目安ということで御理解いただければと思いますけれども、まず1番のところの黄色いところが居住ゾーンについてということになります。新駅の供用開始の時期を見計らいながら、ある程度それにタイミングを合わせて整備をする必要があるだろうと。そのほうがより魅力的で、住む方にとっても住んでみたいと感じる宅地として受け入れられるのではないかとということで、おおむね10年後というようなところも見据えながら、検討していくこととしておりますので、一定の期間を今あけております。ただ④番のシティープロモーションであるとかいったすぐに取り組めるところについては、先行して進めていきたいというふうに思っております。それから⑨番の国道の往来のしやすさというような部分につきましては、中学校側と整備のタイミングを合わせる必要があるだろうということで、若干前倒しをしているという書きぶりになっております。

それから2番のピンク色のところが子育て支援施設の導入というところなんです。こちらについても、先ほども申し上げましたが保育所再編との関連というものがございます。保育



所の再編の基本方針につきましては、今年度中に皆様方にも説明の機会を設ける予定ということにさせていただいておりますけれども、現に今通っているお子さんというのもしゃいますし、親御さんもいらっしゃるという中で、少し丁寧に進めていく必要があるんだろうということで、保育所の再編基本方針を実現するための一つの選択肢として、この子育て支援ゾーンがうまく活用できればというふうに考えております。そういった意味で、こちらについても少し期間を置いて、整備に入るスケジュールという段取りにしております。

それから3番目のオレンジ色のところがにぎわい交流ゾーンということになります。こちらについては、ワークショップ等でもさまざまなアイデア、御意見いただいております。道の駅であるとか産直レストラン、宿泊施設、温浴施設、いろんなものの御意見が出ております。そういった中で、何を核にしていくのがいいのかというようなところも考えていかなくはいけないと思っていますし、それから実際に民間主導で開発をしていくという中では、どこまでの実現性があるのかというようなところも踏まえながら、進めていく必要があろうかというふうに思っております。それから一番下が水色の地域資源ということについて書いております。こちら今ある資源ということでございますので、当面しっかり活用しながら、少しずつではありますけれども整備をしていくというふうに考えております。また体育館等につきましては、周辺となる子育てゾーンでありますとか、にぎわい交流ゾーンといったところの整備に伴って、合わせて動いていくというようなこともあろうかというふうに思っております。

それから小方岩国航路、先ほどから何度か申し上げますが、こちらについても実際の実現性がどこまであるのかとか、いつぐらいからできそうかというようなことはまだ研究をしておりますので、これからということではあろうかというふうに思いますが、やるためにどんな課題があって、どういうことをクリアしていけばできるのかというようなところの調査とか研究とかいう部分については、比較的早期に着手ができるのではなかろうかというふうに考えております。

以上がこの基本構想の概要ということで、大変駆け足で申しわけなかったんですけども、説明ということにさせていただけたらと思います。繰り返し従前から申し上げておりますけれども基本構想ということで、大きな方向性を示しているにすぎないんだろうというふうに思っています。実現するためには、もちろんこの冊子一つで何も動いていかないんだろうというふうに思っています。これから設計図をつくっていくという中で、民間のノウハウというの活用させていただく必要があると思っていますし、議会の皆様にも市民の皆様にもこれからいろんなお力を借りて、いろんな意見聞きながらやっていくというところが大事なんだろうというふうに思っております。なかなか今言った全てのエリアを同時にちょっと進めていくということは難しいというふうに思っていますので、今年度につきましてはエリアを絞って、特定のところについて実現性を高めていく、もしくは内容をもう少し掘り下げていくといった作業をしていきながら取り組んでいきたいというふうに思っております。

済みません、ちょっと時間が長くなりましたが、以上で小方地区のまちづくり基本構想

の説明とさせていただきます。ありがとうございました。

○細川委員長 お疲れさまです。

それでは、ただいまの説明で確認をもう少ししておきたいことなどありましたらお願いいたします。

賀屋委員。

○賀屋委員 JR小方駅ありきの事業だと思うんですけども、この年次別プログラムで行くと、小方駅の完成は10年後というふうに今考えておるといふふうに理解していいんでしょうか。大ざっぱな考えで。

○細川委員長 答えられる範囲でお願いします。

課長。

○三原企画財政課長 駅ですので、立ち上げてから10年というのが大体のところだと伺っております。10年まで切ってますので、大体10年というところに線は入れてますが、ずっと検討と整備ということで、はっきり区切っているわけではないんです。ただ、それを見据えて住宅地の整備というのを10年後の辺で切ってますので、そのあたりにできたらいいなという思いを持ってつくっております。

○細川委員長 いいですか。

賀屋委員。

○賀屋委員 卵が先か鶏が先かみたいな話になるんだろうと思うんですよ。駅がある程度完成が目の前に見えて初めて民間が投資をしていくということになるでしょうし、逆に駅からしたら民間のそういう動き、開発の動向がはっきりしないと、駅の設置もなかなか軌道に乗らないと。どっちが先なんやということに今まではなっておると思うんですけども、そのあたりも踏まえて、やはり駅の話がかなり積極的に前へ進んでいかないと、民間への投資をお願いするにしても、なかなか民間というのは10年先のことは考えませんから、どうしても経済的に数年の中で計画を立てて処理をしていくというような考え方が主流でしょうから、そのあたりを踏まえて、やはり駅ということを前倒しをしていくという。駅の計画は立ち上がって10年というペースというのは、通常のペースで行くとそうなのかもしれないかもしれませんが、JR大竹駅がもう協定も結ばれて軌道に乗っていくわけですから、今度は次にやはり小方駅に向けて、JRとも協議を進めていくということで、ある程度もう少し短いスパンを目指して進めていってもらったほうがいいんじゃないかというふうに思いますが、そのあたりどうなのでしょう。10年というのが一般的ではありますが。なかなか返事はできんかもわからんけども。

○細川委員長 係長。

○山田企画財政課課長補佐兼企画係長 ありがとうございます。ちょっと実際には都市計画のほうで駅についてはこれから交渉に入るというふうに聞いております。一般的に10年ぐらい立ち上げてかかるだろうというのを我々も見てるだけなんですけど、もちろんなるべく早くできれば、そのほうが一緒にまちづくりも進んでいくというのは、もうおっしゃられるとおりだというふうに思っています。そのために何をしたら早くできるのかとか、どういうことを取り組んでいくとそれが本当にそうなるのかというのは、ちょっと私も回答わ

からないんですが、できるだけもちろん駅を核としたまちづくりであることは間違いないので、できるだけそういうふうになるように努力はしていきたいというふうに思っております。

○細川委員長 ほかに。

山本委員。

○山本委員 今の問題と関連するんじやが、執行部のほうで新駅を早期に実現するという構えがどうも弱いと思う。どうやったら早期に実現できるかというふうなことぐらひは、和木町の実例を聞いても大野町の前空の話を聞いても、方々であるじゃないですか。最近新駅を実現した市町村の例が。そういうので情報の入手ができるでしょう。

一番私は新駅をつくることの意味がどういうことにあるかというたら、もちろん利用される小方地域の皆さんはもちろんですが、これから大竹に住んでもらいたい若年層の定住化を進める上で、土地の問題が豊富にあるわけですから、小学校・中学校の跡地もあるし開発可能地もあるわけで、その新駅実現のために大竹市を挙げてこういう取り組みをしておること自体が、地価の価値を上げる大きな要素になるというふうなことを考えれば、10年じゃというようなことを言わんと、とにかく早期に実現するということで、それなりの期成同盟会なり、組織的なまちを挙げての市を挙げての取り組みをする組織づくりも含めて、手をつけるべきだと。

それからもう一つは、岩国大竹道路の関係から見ても、小方に新駅をつくるということと、あそこのガードを抜本的に改良するということを一体的に考えて、国交省のやっぱり力も借りると。これが岩国大竹道路ができたが、このガードの現状はそのままだと。駅もいつできるのやら訳わからんというようなことを残したんじや、末代まで大竹市民に対して申しわけないと思うんですよ。あれだけ大事業を国交省でやるのに、大竹市にメリットがないというようなことじゃ。だから私は岩国大竹道路の事業と並行して、ガードの抜本的な改良と新駅の実現に向けた国交省の知恵も力も借りるということを含めて、早期にやっぱり取り組むべき組織の立ち上げも含めて、もう少しやる気を示してもらいたいと思うんです。そのことを私は特にお願いして、その方向性がはっきりして具体的に動きだしたら、小学校の跡地も中学校の跡地も不動産屋がええ値で買いに来るんですから。そのことが、また若者の定住促進にもつながるし、将来の人口増、まちづくりにもつながる最大の私は問題やと思うんです。しっかりそのことを市長にも伝えてもろうて、大体今日建設部長も出てこんじゃというようなこともおかしいんですよ。ということで、私の意見です。

○細川委員長 そのほかございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○細川委員長 では、ないようですので、小方地区のまちづくり基本構想については以上で終わります。

続きまして、日程2のその他に入りたいと思いますが、ここからは議会の内部の話になりますので、執行部の皆さんは御退席いただいて結構かと思ひます。本日はありがとうございました。

〔執行部退室〕

○細川委員長 それでは日程2、その他に入ります。

ただいま小方地区のまちづくり基本構想について御説明をいただきました。私どもが特別委員会として、小方のまちづくりに向けてずっといろいろ執行部に提案できるようにという形で視察もしたりしてまいりましたが、そろそろことし2年目で、9月も見えてくる時期になりまして、今までの活動をまとめた中間報告を6月の定例会辺りで行ってはどうかと考えていますが、どんなでしょうか。

今和木町に関する勉強会にも行っておりますし、そういった御意見もいただきましたが、そういった活動内容を一回まとめて、中間報告できるような形にしたらいかがかと思いますが。よろしいでしょうか。しませんか。もしあれでしたら、報告のほう一回素案を作成して皆さんに御確認いただければと思うんですが。

では6月を目標に、5月に一度素案をつくりまして、皆さんに御確認いただきたいと思いますので、それでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○細川委員長 はい、ありがとうございます。ではそのように取り扱いを決定したいと思います。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

小方地域まちづくり対策特別委員会を閉会いたします。本日は長い時間お疲れさまでした。

16:52 閉 会